



www.osaka-u.ac.jp

<OUマスタークリエイティブプラン2027に関するお問い合わせ先>

国立大学法人大阪大学 企画部

経営デザイン課 経営企画係

Tel: 06-6879-7176

E-mail: ki-keiei-kikaku@office.osaka-u.ac.jp

OU MASTER PLAN 2027

生きがいを育む社会を創造する大学へ



大阪大学は、開学以来の国立大学という組織を離れて、国立大学法人として新たに出発する。かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂・適塾以来の市民精神を受け継ぎつつ、「地域に生き世界に伸びる」ことをモットーとして、それぞれの時代の社会の課題に応えてきた。歴史の大きな転換点をむかえつつあるいま、大阪大学が国立大学法人として新たな出発をするこの機に臨み、将来の豊かな発展を期して、あらためて自らの基本理念を以下のとおり宣言し、大阪大学の全構成員の指針とする。

1 世界水準の研究の遂行 Conduct World-class Research

大阪大学は、人間そのものや人間が構成する様々な社会、及びそれを取り巻く環境や自然のあらゆる分野について、また、それら相互の関係について、その真理を探求し、世界最先端の学術研究の場となることをめざす。

2 高度な教育の推進 Promote Advanced Education

大阪大学は、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを、その目標とする。

3 社会への貢献 Contribute to Society

大阪大学は、教育研究活動を通じて、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとして、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する。

4 学問の独立性と市民性 Promote Academic Independence and Citizenship

大阪大学は、教育研究の両面において、懐徳堂・適塾以来の自由で闊達な市民的性格と批判精神やその市民性を継承し、発展させる。学問の本質を踏まえ、いかなる権力にも権威にもおもねることなく、自主独立の気概のもとに展開する。

5 基礎的研究の尊重 Value Fundamental Research

大阪大学は、すべての分野において基礎的・理論的な研究を重視し、世界水準の研究を自らの課題として、次世代においても研究のリーダーであることを標榜する。

6 実学の重視 Focus on Practical Learning

大阪大学は、実学の伝統を生かし、基礎と応用のバランスに配慮して、現実社会の要請に応える教育研究を実践する。

7 総合性の強化 Strengthen Inter-Departmental Connectivity

大阪大学は、総合大学としての特色を追求する。たんなる部局の集合体ではなく、人文科学・社会科学・自然科学・生命科学など、あらゆる学問分野の相互補完性を重視するとともに、新時代に適合する分野融合型の教育研究を推進する。

8 改革の伝統の継承 Continue a Tradition of Reform

大阪大学は、つねに世界に先駆けて新たな学問分野を切り拓き、それに見合った教育研究組織を生み出してきた自己革新の伝統を継承し、絶えざる組織の点検・再編に努める。

9 人権の擁護 Support Human Rights

大阪大学は、その活動のあらゆる側面において、人種、民族、宗教、信条、貧富、社会的身分、性別、障がいの有無などに関するすべての差別を排し、基本的人権を擁護する。

10 対話の促進 Promote Dialogue

大阪大学は、あらゆる意味での対話を重んじ、教職員および学生は、それぞれの立場から、また、その立場を超えて、互いに相手を尊重する。

11 自律性の堅持 Adhere to Autonomy

大阪大学は、直面する課題に対し、構成員間の協調をとおして、自らの意思においてその解決を図る。

OU MASTER PLAN 2027

生きがいを育む社会を創造する大学へ

Aspiring to be a University Dedicated to
Creating a Society where Each Member Leads a Meaningful and Fulfilling Life

OU: Osaka University

| | |
|----|--|
| 01 | 大阪大学憲章 |
| 03 | 総長からのメッセージ |
| 05 | 生きがいを育む社会の創造 |
| 07 | OUエコシステムによる「知」「人材」「資金」の好循環の構築 |
| 09 | 大阪大学の経営を織りなすしなやかで強靭な中長期計画 |
| 11 | 教育基盤—知性あふれる人材の育成環境の構築 |
| 13 | 研究基盤—自由な発想が芽吹く研究環境の構築 |
| 15 | 経営基盤—共創を中心とした経営体制の構築 |
| 19 | コロナ新時代に対応する情報基盤整備(OUDXイニシアティブ) |
| 21 | 多様な人材が輝くグローバル戦略とDiversity & Inclusionの深化 |
| 25 | 自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出 |
| 26 | 社会との共創を醸成し、活性化させるプランディングの展開 |
| 27 | 社会との共創によるグリーン・リカバリーの推進 |
| 28 | 2025年大阪・関西万博へ向けた具体的な取組 |
| 29 | 用語集 |

総長からのメッセージ

Message from the President



「社会に貢献する」大学から 「社会を創造する」大学へ

この度、大阪大学は、学内外のステークホルダーとの対話を重ね、2022年から始まる第4期中期目標期間に加え、さらにその先も見据えた中長期的な経営ビジョンである「OU(Osaka University)マスター・プラン2027」を取りまとめました。

第3期中期目標期間には、指定国立大学制度の創設などさまざまな大学改革に係る施策が矢継ぎ早に行われ、国立大学を取り巻く環境は大きく変わりました。また、新型コロナウイルス感染症の克服や、カーボンニュートラル・SDGsの実現をはじめとした社会システムの大きな転換が求められる中で、大学での人材育成やイノベーション創出への社会からの期待が一層高まっています。このような社会からの大きな期待と課題を前にして、今、大阪大学に求められていることは、本学が持つ「知性」、「英知」を結集して社会との共創(Co-creation)を活性化させ、社会を変革する力を生み出すことです。それによって、我々大阪大学は、単に「社会に貢献する」ということに止まらず、一步踏み込んで新たな「社会を創造していく」大学を目指します。

今後、このプランを頼るべき道標としながら、大阪大学は、「生きがいを育む社会」を創造する大学として、社会の皆様とともに挑戦的な一步を踏み出していきます。

大阪大学第18代総長 西尾章治郎

From "Social Contribution" to "Social Creation"

I am pleased to share with you the OU Master Plan 2027, an upgraded vision for Osaka University's fourth medium-term goal period (FY2022-2027) and beyond, after extensive dialogue with internal and external stakeholders. Beginning in April 2022, this plan sets the direction for our university's future.

With this Master Plan, we aim to go one step further from the traditional mission of "social contribution" to "social creation." Such a move reflects high expectations and significant challenges we face both nationally and globally. The third medium-term goal period (FY2016-2021), witnessed momentous changes in the operating environment for national universities, with the introduction of a series of university reform policies by the government, most notably the establishment of the Designated National University Corporation system. Moreover, universities are confronted with growing anticipation from society to cultivate talent and foster innovation in a major reorientation of social systems to tackle challenges such as the COVID-19 pandemic and pursuit of the SDGs and carbon neutrality. Osaka University must marshal our collective knowledge and wisdom, actively pursue co-creation with society, and manifest our capacity to transform society.

With this Master Plan as a guide, Osaka University will take another bold step forward to create "a society where each member leads a meaningful and fulfilling life" together with stakeholders throughout society.

NISHIO Shojiro

18th President, Osaka University

生きがいを育む社会の創造

Creating a Society where Each Member Leads a Meaningful and Fulfilling Life



地元の熱意に支えられた 創立の歴史

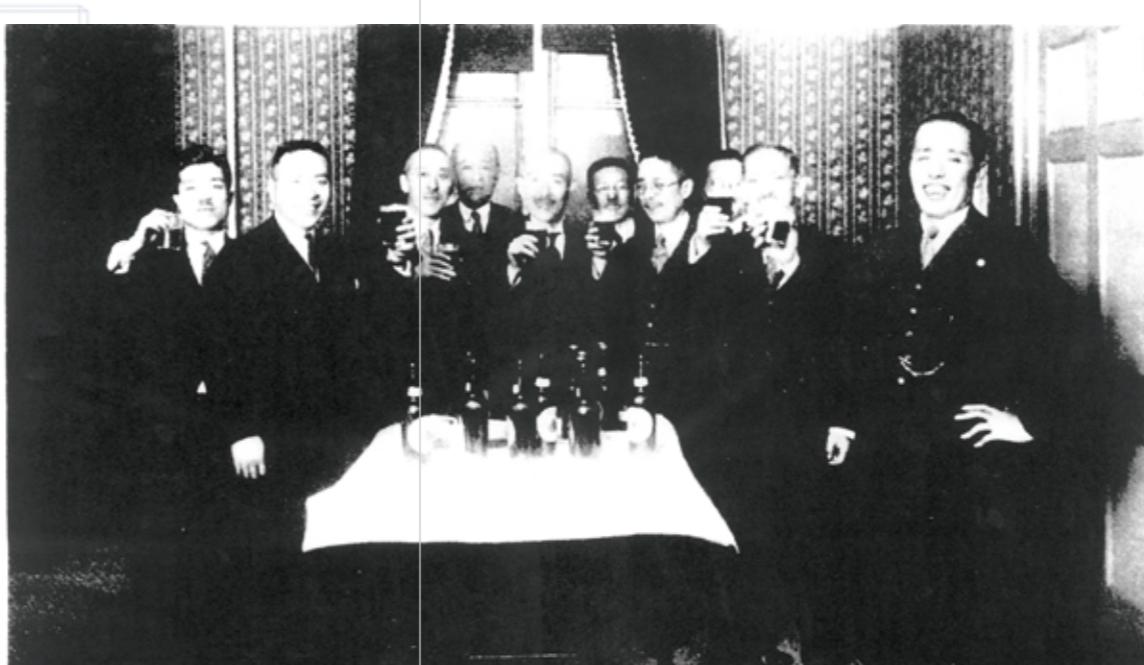
大阪大学は、かねて大坂の地に根づいていた懐徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、政界・財界や市民の熱意ある活動の末、1931年に創設されました。こうした創設の経緯から、本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、社会に進んで門戸を開き、その多様性の中で、人類の理想を実現せんと努力する有為な人材を輩出するとともに、しなやかに実直に普遍の真理を見極め、世界最先端の学術研究の成果を社会に還元し続けてきました。また、本学の歴史の中で2004年の国立大学法人化は大きな転換点であり、この国立大学法人としての新たな出発を見据え、本学は、2003年に将来の豊かな発展を期して「大阪大学憲章」を制定しました。

OUビジョン2021による礎の確立

第3期中期目標期間においては、この「大阪大学憲章」を実装することを目指して「OU(Osaka University)ビジョン2021」を打ち出しました。このビジョンのもと、大阪大学が「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」となるため、大学本来の自由な発想による研究の蓄積、人材育成を行なながら、その成果を社会で実装あるいは実践し、その過程で明確になった課題を再び大学に還元し教育研究を発展させて、知・人材・資金の好循環を生み出す「OUエコシステム」の確立をはじめとした「社会との共創」を実現するための礎を積み上げてきました。その取組の成果は、本学の論文数や共同研究の受入額等の上昇にも着実に現れてきています。

社会との共創を通して 「生きがいを育む社会」の 創造を目指す

従前とは異なる「コロナ新時代」という時代の大きな転換点を迎え、カーボンニュートラルやSDGsの実現による持続可能な社会を目指した変革が進む中で、我々大阪大学の構成員は、「今後社会からの負託にどのように応え、どのような大学であるべきか」という問いに必然的に向き合うことになりました。その問い合わせについて熟考した結果、我々がたどり着いた答えは、社会との共創を通して、地域から世界全体に及ぶさまざまな課題を解決し、「生きがいを育む社会」を創造する大学となることでした。大阪大学で育まれる「知性」、「英知」を結集して、科学技術・学術・医療制度、経済システム、企業等の組織、コミュニティ、個人の生活や価値観等を抜本的に転換する新たな社会の仕組みを創り出すことで、個々人が社会で活躍できる寿命を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を活かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を実現する。それが大阪大学の目指す理想の社会像です。



History: A University Founded in Community Spirit

Osaka University was founded in 1931 with passionate support from the local government, the Kansai business community, and the citizens of Osaka. It also inherits the spirit of two private academies, Kaitokudo and Tekijuku, deeply rooted in the Osaka region, that delivered front-line scholarship during the Edo period (1603-1867). This founding history led us to adopt the motto, "Live Locally, Grow Globally." Consequently, Osaka University has been known for its openness to the community, embracement of diversity, and nurturing of individuals with a strong sense of mission for humanity, while remaining humble and flexible in the pursuit of universal truths. Guided by our motto and its underlying philosophy, we have produced and shared world-leading research with society. A crucial turning point for our university was its shift to a National University Corporation in 2004. Leveraging this new beginning, the Osaka University Charter was established in 2003.

大阪大学の原点

大阪大学は、地元の政界・財界・市民の援助と強い熱意によって1931年に創設されました。下の写真は、地元が一丸となって国会請願をした「大阪帝大の創立案」が貴族院を通過した日の深夜に、中心となって活動された方々が祝杯をあげているワン・ショットです。

Laying the Foundations through OU Vision 2021

To realize the principles of the Osaka University Charter, we issued OU (Osaka University) Vision 2021 during its third medium-term goal period. Guided by this vision, we have enhanced our performance to become a world-leading innovative university that contributes to social transformation through co-creation with society. This would primarily be achieved through the establishment of the OU Ecosystem: a virtuous cycle of knowledge, talent, and funds. These initiatives have been successful, as evidenced by improved performance in the number of papers authored by Osaka University researchers and revenue from joint research projects.

Creating "A Society where Each Member Leads a Meaningful and Fulfilling Life" through Co-Creation with Society

The world has reached a major historical turning point with the COVID-19 pandemic, along with progressive changes toward sustainable societies, including the achievement of the SDGs and carbon neutrality. These developments have inevitably required all members of Osaka University to confront the question: "how can we respond effectively to our social mandate and what kind of university should we become in the years ahead?" The answer that has emerged following much deliberation is that we should be a university that creates "a society where each member leads a meaningful and fulfilling life" by solving a variety of local and global problems through co-creation with society. Combining the knowledge and wisdom nurtured at Osaka University, we aim to formulate new social mechanisms that fundamentally transform science and technology, academia, healthcare and economic systems, corporate and other organizations, communities, and individual lifestyles and values. Osaka University will contribute to a society where the active lifespan of individuals is extended, people of all ages utilize their diverse attributes, and ultimately, each and every member of society enjoys a happy and fulfilling life. This is the ideal society that Osaka University aims to achieve.

OUエコシステムによる「知」「人材」「資金」の好循環の構築

Cultivating a Virtuous Cycle of Knowledge, Talent, and Funds, with the OU Ecosystem

「知」「人材」「資金」を好循環させるOUエコシステムを核に大学を活性化

「生きがいを育む社会」の創造のため、大阪大学は産業界のみならず、市民や地方自治体、国際機関など、まさに多様なステークホルダーとの共創により、地域から世界に及ぶさまざまな課題に果敢に挑戦し、その解決を図る必要があります。その活動の基盤をなすものが、OUエコシステムです。

OUエコシステムは、大学本来の自由な発想による研究の蓄積、人材育成を行いながら、その成果を社会で実装あるいは実践し、その過程で明確になった課題を再び大学に還元し教育研究を発展させて、

知・人材・資金の好循環を生み出すシステム、すなわち、常に社会と共に創を続けることで抽出される社会からの課題・問題点等について、社会のステークホルダーとともに考え、教育研究の現場に戻し、新たな知・人材を創出する仕組みです。

このOUエコシステムを核としつつ、2022年度からの第4期中期目標期間に向けて、教育、研究、経営のそれぞれの持続可能な基盤を築くために、OUマスタークリア2027の中で次(9~10頁)に示すような基本方針を掲げました。

OUエコシステム

卓抜した教育研究成果を社会実装し、その中から生じる新たな課題を分析し、教育研究現場に還元する好循環を築き、一層大きな社会変革を生む新たな価値創造のシステム



教育研究成果

ELSI研究
社会実装



社会

「知」と「人材」と「資金」の
好循環



大学

基礎研究の深化
新研究領域の開拓

課題発掘

フィードバック
新たな問題点

カーボンニュートラル
SDGsをはじめとした
社会課題の解決へ



Vitalizing the University with the OU Ecosystem, a Virtuous Cycle of Knowledge, Talent, and Funds

To create a society where each member leads a meaningful and fulfilling life, Osaka University must boldly seek solutions to a variety of challenges from the local to the global levels through co-creation with diverse stakeholders. This includes not only industry partners but also communities, local government authorities, and international organizations. Underpinning all these activities is the OU Ecosystem.

The OU Ecosystem is a virtuous cycle of knowledge, talent, and funds. It involves producing research through the pursuit of intellectual curiosity, cultivating talent, applying the outcomes of education and research in society, and uncovering new challenges

that can be fed back into the university for further development of education and research. In other words, it is a system for working with stakeholders to address issues identified through constant co-creation with society, feeding ideas back into the university's education and research practice, and generating new knowledge and talent.

This OU Ecosystem remains central to the OU Master Plan 2027, which sets out the following basic approach to build a sustainable basis for education, research, and university management as we enter our fourth medium-term goal period from FY2022.

大阪大学の経営を織りなすしなやかで強靭な中長期計画

Comprehensive and Flexible Plan for Management of Osaka University

OUマスターPLAN2027 実現のための基本方針

OUマスターPLAN2027は、その時々に重点的に取り組む事項を個別にパッチワーク的に集めた経営計画ではありません。教育・研究・経営のそれぞれで貫徹される方針である縦軸の戦略と情報基盤整備、Diversity & Inclusionなど教育・研究・

経営を横断的に支える事項で通底する方針である横軸の戦略を折り合わせることで、今までの国立大学にない網羅性と柔軟性を合わせ持つ中長期的経営計画となっています。このプランによって、大阪大学は、時代の変化に柔軟に対応しつつも数十年先を見据え、その目指す方向性を見失うことなく教育研究を発展させ、経営基盤を拡充していくことができると確信しています。



OUマスターPLAN2027の特徴

大学の中核となる教育、研究、経営を縦軸に、これらを横断的に支える情報基盤整備、グローバル戦略、Diversity & Inclusion、豊かな時間の創出、ブランディングを横軸として互いに編み合せ、網羅性と柔軟な発展性を合わせ持つ中長期的なプランを策定。

コロナ新時代に対する情報基盤整備

多様な人材が輝くグローバル戦略とDiversity

自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出

社会との共創を醸成し、活性化させるブランデ

& Inclusionの深化

ィングの展開

Framework for Achieving the OU Master Plan 2027

The OU Master Plan 2027 is not a jumble of management plans to address changing priorities pursued at different points in time. Instead, it is a comprehensive and flexible medium- to long-term plan, unlike conventional methods of management of national universities in Japan. It weaves strategies in education, research, and management, together with approaches to support these three domains, such

as information infrastructure development and diversity and inclusion. We are confident that this plan will enable Osaka University to advance its education and research and enhance its management base without losing sight of its intended trajectory over the next few decades while also responding flexibly to the changing times.

教育基盤

知性あふれる
人材の育成環境

未来社会の
あり方を創造し、
社会変革を導く
人材の育成

研究基盤

自由な発想が
芽吹く環境

新たな社会の創造に
資する基礎研究の推進と
新たな価値の実装化への
先導

経営基盤

共創を中心とした
経営

共創活動の
レベルアップと教育・研究・
業務システム改革による
経営基盤の充実

教育基盤－知性あふれる人材の育成環境の構築

Educational Strategies: Environments to Foster Knowledgeable Individuals Capable of Social Change

卓越した教育機関として、社会からの負託に応えるべく、大阪大学の学部生・大学院生が、社会課題に対応する能力を身に付け、どのような社会に変容しようとも個々の自己実現を図り、生き生きと力強く活躍し、新たな社会を創造できる知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境を整備します。

To fulfill our social mandate as a leading educational institution, we will establish educational environments that empower Osaka University undergraduate and graduate students to acquire the abilities needed to tackle societal issues. Furthermore, we will continually nurture intellectual individuals capable of realizing their full potential regardless of the changes that may occur, pursuing their careers while demonstrating their talents and redefining society.

社会創造への取組

Student Life-Cycle Support Systemによる自己実現の支援

個々の学生の入学前から卒業・修了後までのキャリア段階に対応した継続的な支援を行うために、データを基盤とした個別最適学習・学生支援システムを構築します。これによって学生一人ひとりに寄り添った支援を提供するとともに、教育・学習成果を可視化し、エビデンスに基づく内部質保証システムの実質化及び大学教育に対する投資が社会に与える貢献を明らかにすることを目指します。



重点戦略・主要取組

未来の様々な社会課題に挑戦する力強い人材を輩出

1-1 学部から大学院までを見通した教育体制の構築

- ① 学部共通教育体制と国際性涵養教育体制の強化
- ② 大学院教育支援体制の強化
- ③ Student Life-Cycle Support Systemとその活用による教育・研究指導体制の強化ならびに運営体制の整備
- ④ 自主性、指導性、協調性などを培うための課外活動・キャリア支援・修学支援体制の強化
- ⑤ 対面授業とメディア授業の併用による「ブレンデッド」教育体制の確立



1-2 学部・大学院教育内容のさらなる充実化

- ① 「知と知の融合」、「学際融合」や「社会と知の統合」科目の充実のためのDouble-Wing Academic Architecture構想の定着化
- ② 数理・データ情報科学教育の強化と全学体制の構築
- ③ 人文社会科学系教育リソースの全学的活用による横断型教育体制の構築
- ④ 健康・スポーツ科学教育研究連携体制の構築

1-3 学外の様々なステークホルダーとの連携を活用した人材育成

- ① 国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充
- ② インターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学的展開ならびに企業・大学相互メリット型リカレント教育体制の構築

卓抜した研究機関として、大阪大学の構成員一人ひとりが目先の成果にとらわれず、自由な発想に基づき生き生きと研究に没頭できる環境を目指し、すべての研究者が多様な基礎研究に取り組むことができる確固たる基盤を構築します。

As a leading research institution, we aim to provide an environment that enables all members of Osaka University to apply themselves to research founded on intellectual curiosity, unfettered by short-term outcomes. We will build robust foundations for all researchers to pursue various fundamental research.

社会創造への取組

日本財団・大阪大学 感染症対策プロジェクト

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

新型コロナウイルス感染症の流行により明らかになった社会課題(真偽不明の情報氾濫、平時は軽視されてきた感染症基礎研究、流行拡大に弱い医療体制など)を教訓として、次なる感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守るべく、大学内外の知を結集し、ハブ/プラットフォームとなるべき総合拠点を形成します。

【課題1】
社会・経済活動の維持

【課題2】
感染症の予防と治療

【課題3】
医療崩壊の阻止

課題解決に向け、大阪大学に感染症総合教育研究拠点を構築 (2021年4月設置)
日本財団・大阪大学 感染症対策プロジェクトを始動 (2021年9月)

【アクションプラン1】
情報発信・リテラシー向上

- 科学的エビデンスに基づいた
信頼性の高い情報発信
- 政策分析と提言、情報発信(日英)
- オンライン情報配信(年10回)
- 公開市民講座(毎年)



【アクションプラン2】
感染症研究基盤構築

- 予防、診断、治療等の迅速な開発と
普及のための基礎研究成果の創出
- ヒト生体防御システムの基本原理の解明
- 病原微生物に対する免疫応答機構の解明
- 病原微生物の基礎研究と
その制御法の開発

感染症克服に向けた分野横断型研究
(知のプラットフォーム:オール阪大研究)

【アクションプラン3】
医療人材育成

- 医療従事者等の教育訓練や
感染症対策リーダー育成
- 医療従事者等1万人への教育訓練等
- 若手医師育成海外実習等(毎年)
- 感染・免疫国際フォーラム(毎年)
- 最先端免疫学国際シンポジウム(毎年)



【アクションプラン4】

世界最高水準の研究基盤/異分野の専門家が集う研究棟を整備

-「知」がクロスし、積極的な情報発信をする国際拠点構築-

2025年2月末竣工予定

重点戦略・主要取組

すべての研究者が自由な発想に基づき 生き生きと研究に没頭できる環境を構築

2-1 学術機関の根幹となる多様な基礎研究の実践

- ① 全ての研究者が知的好奇心・探求心に基づく基礎研究を持続的に実施可能とする活動基盤の拡充
- ② 研究資料、学術情報基盤やリポジトリを含む各種デジタル・リソースの充実化
- ③ 学内に遍在する先端的研究・実験機器の可用性向上
- ④ 安心して研究に打ち込める研究環境安全管理、安全保障輸出管理体制の強化
- ⑤ 社会の信頼と負託に応える高い倫理観を養うFDの徹底



2-2 世界レベルで卓越した研究拠点形成と 新たな研究領域の開拓

- ① 重点研究分野の国際的プレゼンス向上のための研究推進支援体制の強化と重点投資
- ② 卓越研究分野が先導する部局横断型大型研究プロジェクトの醸成と省庁・FAへの提案支援による外部資金獲得体制強化
- ③ 次世代AI技術によるデータ駆動型研究の加速
- ④ 研究環境整備、学際融合機会の創出、グローバル化の奨励など若手研究者に対する積極的な支援
- ⑤ 人文社会科学分野のポテンシャルを活かした新領域の開拓と分野包括的な研究戦略の立案

2-3 新しい社会創造に貢献する OUエコシステムの広範な浸透・充実化

- ① 「社会との共創」への接続を意識し、「+ELSI」、「新興感染症」、「PLR(Personal Life Records)」、「いのち」をキーワードに、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向けた学際研究を実施するための基盤構築
- ② グローバルな社会課題、未踏課題等への「挑戦」を奨励・支援する寛容な大学・部局運営

経営基盤 - 共創を中心とした経営体制の構築

Management Strategies: Co-Creation as a Source



教育基盤、研究基盤を構築するため、社会との共創活動の推進により「知」「人材」「資金」の好循環を波及的に拡大させるとともに、それを支えるガバナンス体制を構築し、経営的センスを擁した事務体制を強化します。

In order to establish our educational and research foundations, we will continuously expand the virtuous cycle of knowledge, talent, and funds by promoting co-creative activities with society, as well as establishing governance structures to support this cycle. We will also enable management to reinforce the university by strengthening the administrative structure.

社会創造への取組

未来社会共創コンソーシアム

産学共創のさらなる強化とオープンイノベーションの深化・拡大を目的とし、課題探索段階から大阪大学と企業等が共に議論し、課題解決に向けた産学共創プロジェクトを企画提案する新たな仕組みとして2020年4月に始動しました。1研究者と1企業の共同研究では解決できない課題に対し、複数研究者、さらには複数企業が分野やセクターを超えて参画する産学・産産連携型の共同研究プロジェクトの企画提案等を行うことも可能です。



社会創造への取組

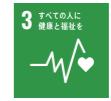
大学が持続的に成長する自律的な経営体制の構築

全学的なマネジメントの下、質保証・PDCAを確立する体制・仕組みをビルトインし、将来構想の実現に向けた成長のサイクルを回すとともに、ステークホルダーとの双方向の対話を促進し、社会からの共感の獲得を目指します。

- 専門的知識を活用して戦略的に大学経営を推進する、執行部の意思決定を強力にサポートする体制の整備・強化
- 高度な企画立案や専門的分析を行える事務組織体制の整備
- 経営判断に必要な情報・データの収集機能の強化



- コンプライアンスの遵守・リスク管理体制の強化
- ハラスマント防止の全学徹底
- 安全管理体制の強化



重点戦略・主要取組

共創を中心とした、未来への先行投資と基盤の深化の両輪を回す経営を確立



コロナ新時代に対応する情報基盤整備 (OUDXイニシアティブ)

Information Infrastructure for the New Era of COVID-19*: OUDX Initiatives

コロナ新時代に対応する高度なデジタル化、すなわち大阪大学全体のデジタル・トランスフォーメーション(OUDX)により、教育・研究・経営を横断的に支える基盤を構築します。

We will build an information infrastructure that supports each of these three strategies: education, research, and management. This will be achieved through the deployment of advanced digital technology for the new era of COVID-19—in other words, the Digital Transformation of Osaka University (OUDX).

*New Era of COVID-19: A new era impacted by the effects of COVID-19.

社会創造への取組

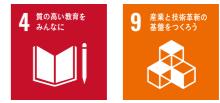
オープンサイエンスを支える“DX in Research”

コロナ新時代においては、研究の在り方やスタイルが大きく変容し、遠隔技術の使用の流れが発達していきます。そのような中で、情報基盤を整備し、IT・VR・AI等を積極的に利用することにより、場所や時間の制約を受けず研究ができる環境を実現することで、研究者が国際的な共同研究、先鋭的な研究に注力する研究環境を提供していきます。また、学際融合研究や共創活動を加速する研究シーズの見える化などの環境整備を行います。

研究遂行の全てのプロセスを オンラインでサポートするデジタル技術の導入



重点戦略・主要取組

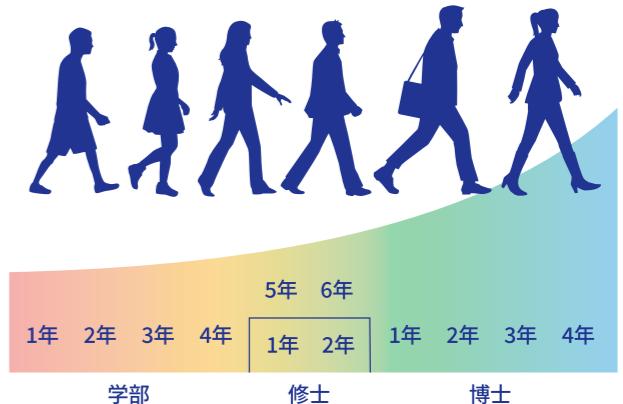


教育・研究・大学経営を支える新たな情報基盤の構築

4-1 ブレンデッド教育※を支える 学修環境の高度化(DX in Education) の実現

- ① 入学前から在学中、卒業後まで「阪大生」を重要なステークホルダーとしてサポートする基盤の構築
- ② 学修データを収集・利活用するための教育用情報基盤の整備、制度設計、人材養成
- ③ ブレンデッド教育、オンライン・エンロールメントを支える安心・快適な情報インフラの整備

※対面とオンラインの学習活動を効果的に組み合わせたカリキュラムおよび授業形態

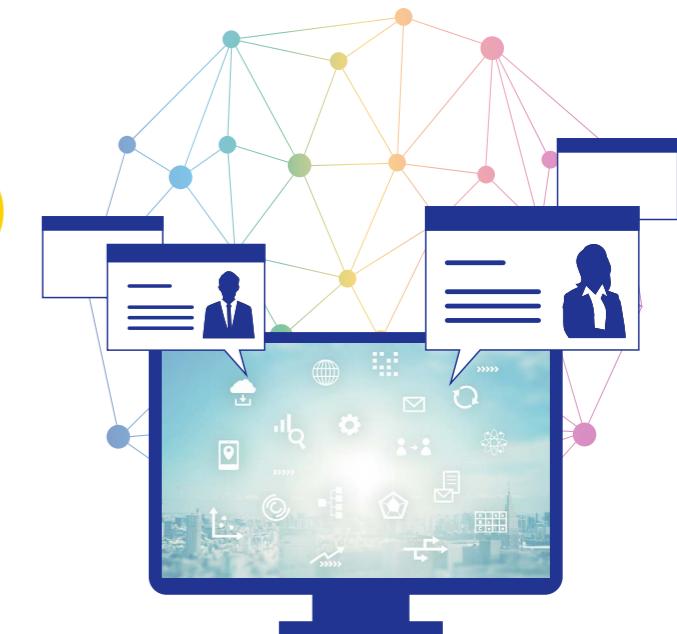


4-2 研究活動のフルオンライン化を 可能とするeResearch(DX in Research) 環境の整備



4-3 戦略的な大学経営を支える DX in Managementの実現

- ① OUDX基本方針に基づく各種システムの導入
- ② 学生サービスの向上を見据えた教育研究活動支援業務のオンライン効率化
- ③ 戰略的な資源配分を支えるIR活動の全学展開に向けた環境の整備



多様な人材が輝くグローバル戦略と Diversity & Inclusionの深化

Global Strategy and Advancement of Diversity and Inclusion
to Welcome Diverse Talent

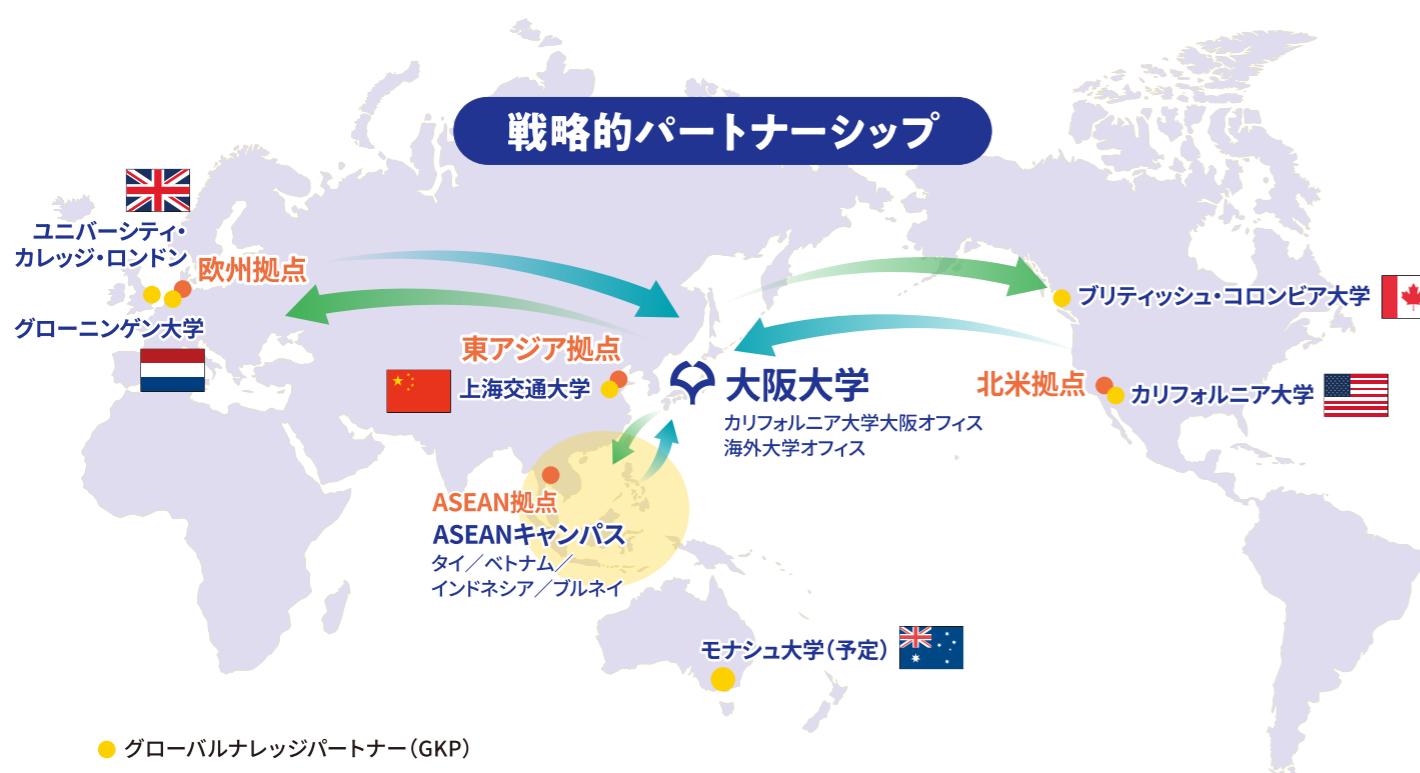
多様な人材が活躍し輝くグローバル戦略を推進するとともに、多様な個性が活性化し開花するキャンパスを実現させます。特に、これまでにも推進してきた、性別、SOGI(性的指向、性自認)、障がいの有無、国籍、民族、文化的背景、年齢等の違いを超えた、真に多様性を生かせるダイバーシティ&インクルーシブな環境づくりをより一層強化します。

We will pursue a global strategy and create a campus culture that celebrates individuality and contributions to society. We will work especially on further strengthening existing initiatives to develop diverse and inclusive environments in terms of qualities such as gender, SOGI (sexual orientation and gender identity), with or without disabilities, nationality, ethnicity, cultural background, and age.

社会創造への取組

グローバル連携による社会課題への挑戦

海外の有力大学との国際連携によりグローバル課題の解決を目指した共同プロジェクトを推進します。また、戦略的パートナーとの連携によって海外キャンパスを中心としたネットワークを構築し、地域的な社会課題の解決に資する教育研究を展開します。



重点戦略・主要取組

世界規模の課題に立ち向かうグローバル人材の育成と学術研究の推進

5-1 優秀な留学生の受入れと本学学生の海外派遣を通じたDiversityの向上とグローバル人材の育成

- ① 優秀な留学生を戦略的に受入れるための学内外連携体制の整備充実
- ② 学生の国際性を涵養する短期海外派遣体制の整備充実



5-2 卓越した学術研究のグローバル展開

- ① 海外の有力大学等との戦略的組織間連携(GKP)による世界的に卓越した研究拠点の形成
- ② 高い独創性を有する研究を推進できるグローバル若手研究者育成制度の整備充実
- ③ 海外への戦略的な情報発信の強化



5-3 グローバル連携による社会課題への挑戦

- ① 海外の有力大学等との戦略的組織間連携(GKP)による最先端の共同研究、グローバル人材育成を通じた、グローバル課題への挑戦
- ② ASEANキャンパスの深化・広域化を通じた、現地社会に寄り添い、地域ニーズに応える共同研究・高度人材の育成の推進



5-4 全学規模のグローバル展開に向けた推進体制の強化

- ① 全学的な国際戦略の立案機能の強化
- ② 全学的な国際連携体制の強化

国際連携の司令塔である
グローバルイニシアティブ機構が
全学の戦略を推進！

多様な人材が輝くグローバル戦略と Diversity & Inclusionの深化

Global Strategy and Advancement of Diversity and Inclusion
to Welcome Diverse Talent

社会創造への取組

女性比率が低い分野における戦略的なすそ野拡大

女性比率が低い分野において戦略的にすそ野を拡大するため、アンコンシャス・バイアスの克服、小中高生に対するSTEAM分野の進路選択支援及び経済的不安の解消による博士後期課程進学の促進を行います。



阪大リジョ(理女)フェス



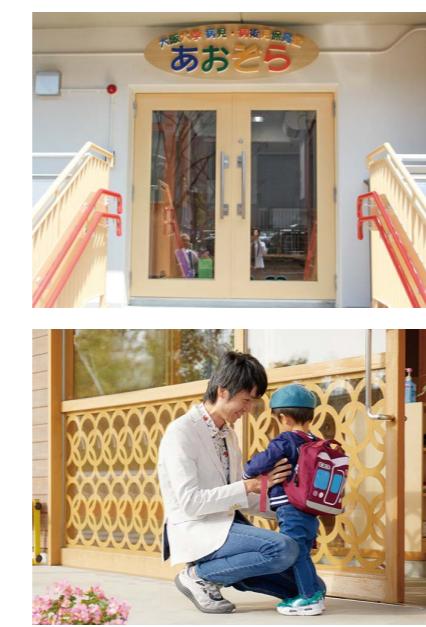
女子在学生による研究紹介

ライフイベントを迎えた研究者の研究活動の円滑化を支援する取組の強化

ライフイベントを迎えた研究者の研究活動の制限・中断等を防止するため、研究支援員制度の拡充等により研究活動の円滑化を図ります。



みんなの子育て・介護等両立
支援ガイドブック



学内保育園の充実

重点戦略・主要取組



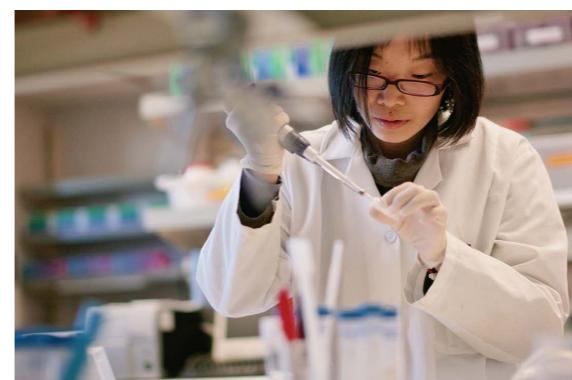
多様な価値観や文化的多様性により
イノベーションを活性化させる



5-5 アンコンシャスバイアス克服による 女性高度人材の育成

- ① 女性比率が低い分野における戦略的なすそ野拡大
- ② 女性リーダー育成にむけた産学連携事業の推進

学部段階からの女性高度人材の育成、
意識改革の実施



5-6 女性研究者の研究力向上に向けた 環境整備

- ① ライフイベントを迎えた研究者の研究活動の円滑化を支援する取組の強化
- ② インクルーシブ・マネジメント力の向上及びDiversity & Inclusionの推進による研究領域の開拓、女性研究者の育成

女性研究者の研究活動の円滑化
ダイバーシティを考慮した
研究領域の開拓

5-7 InclusiveでWell-beingな キャンパス環境創出の促進

- ① SOGI、障がいを尊重するDiversity&Inclusionの基盤整備
- ② 構員の子育て支援の強化ならびに心身の健康づくり施策の推進

多様性を受容・包摂する学内環境の整備



自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出

Providing Fulfillment to Pursue Intellectual Curiosity

生きがいを育む社会の創造に向け、本学で働くすべての教職員が働きがいや幸せを実感できる環境の構築に取り組み、豊かで自由な時間を創出します。

重点戦略・主要取組

本学で働くすべての教職員が働きがいや幸せを実感できる環境を構築

6-1 多様な働き方を促進し、個々人が輝ける場の構築による豊かな時間の創出

- ① 事務・事業の見直し、効率化
- ② 働き方・働く場所の弾力化
- ③ 豊かで自由な時間を創出するための快適で魅力あるオフィス環境の整備
- ④ 各教職員の役割の明確化、適切な評価と待遇への反映



ソフト面とハード面の両方から環境を充実

事務・事業の見直し、効率化

- 業務フローの見直し・集約化
- ICTの活用・ペーパレス化
- 大学の戦略に必要な機能強化を踏まえた適正な人員配置・配分計画策定、実施

働き方・働く場所の弾力化

- 在宅勤務制度の更なる拡充
- 安全な情報セキュリティを維持しながら在宅勤務が実現できる環境の整備



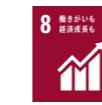
快適で魅力あるオフィス環境の整備

- 新たなオフィスレイアウト、フリーアドレス型の活動スペースの導入



各教職員の役割の明確化、適切な評価と待遇への反映

- 事務職員の新キャリアパス制度の実装、教員業績評価制度・役割分化制度の活用等により、各職種の特性に応じた評価を実施



社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開

Branding Initiatives to Foster and Encourage Co-Creation with Society

ステークホルダーとの信頼関係を構築し、社会との共創を醸成・活性化させるため、地域や社会、市民との共創の場を活用し、社学連携活動と広報活動を通じて大阪大学のブランドの醸成に取り組みます。



In order to build trust with stakeholders as well as foster and encourage co-creation with society, we will nurture the Osaka University brand through collaborative activities with society and public relations initiatives that make use of opportunities for co-creation with local communities, society, and individual citizens.

重点戦略・主要取組

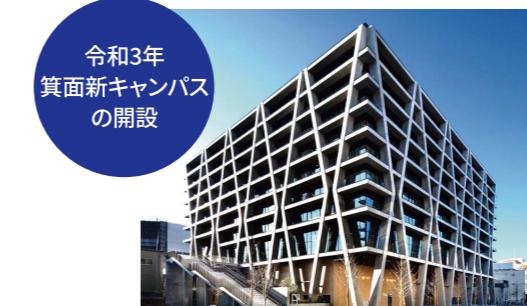
ステークホルダーとの信頼関係を構築し、阪大ブランドを展開

7-1 地域・社会・市民との共創を通じたブランドの醸成

- ① OUグローバルキャンパスの持続的発展のための活動
- ② ミュージアム・リンクス及び21世紀懐徳堂による社学連携の総合的展開を軸にした社学アウトリーチ活動全体の活性化

OUグローバルキャンパスの活用やミュージアム・リンクス、21世紀懐徳堂などによる社学アウトリーチ活動

OUグローバルキャンパス



令和3年
箕面新キャンパス
の開設

市の生涯学習センター、文化ホール、図書館との効率的な運用

ミュージアム・リンクス 21世紀懐徳堂



地域・市民との
知の共創活動

社学アウトリーチ活動の総合的展開

7-2 阪大ブランドに係るパブリック・リレーションズ(PR)の展開

- ① 受験生を対象としたマーケティングに基づいたPR活動
- ② 優秀な研究者が関心を寄せる戦略的なPR展開
- ③ ステークホルダーとの共創を活性化させるためのPR強化

受験生を対象としたマーケティングに基づいたPR、優秀な研究者が関心を寄せる戦略的なPRなどの展開
社会に対するインパクト等を戦略的に発信する体制の構築



社会との共創によるグリーン・リカバリーの推進

Advancing Green Recovery through Co-Creation with Society



研究の取組

材料研究でカーボンニュートラル社会の実現に貢献



- ・実験とAIを融合した次世代太陽電池の開発
- ・人工光合成のための金属錯体触媒の開発
- ・家畜ふん尿のバイオガスからメタノールを製造
- ・海に還るバイオマスプラスチックの開発

教育研究成果の社会実装



キャンパスを社会実装の場に
学内連絡バスへの電気バスの導入を通じた実証実験

**OUエコシステムによって
大阪大学が
カーボンニュートラルの
ブレークスルーを実現**

社会変革につながる 基礎研究・人材育成



企業等と連携し、全学に
講義「カーボンニュートラルと
私たちの未来」を提供

教育研究テーマの深化



【目標】

大阪大学全体の
温室効果ガス排出量
2030年度までに
40%以上削減

*2021年10月閣議決定の
「地球温暖化対策計画」に基づき、
本学の目標を変更予定

大阪大学のCO₂削減取組



キャンパスの ZEB Ready化を推進!



箕面キャンパスが
LEED-NDゴールド認証取得
大学キャンパスとして初
2021年10月認証取得

大阪大学は、大学の温室効果ガスの排出を抑える取組を手始めとして、新しいエネルギー等への研究や、世界的な状況変化に対応できる人材の育成を通じて、グリーン・リカバリーを推進します。脱炭素社会を実現するために、企業等ステークホルダーとの対話を通じてブレークスルーが必要な課題を整理するとともに、様々なシステムを抜本的に転換するような社会像をオピニオンリーダーとして示していきます。

Beginning with our initiatives to minimize greenhouse gas emissions within Osaka University, we will promote Green Recovery through research on new forms of energy and foster individuals capable of responding to ever-changing global trends. To achieve decarbonization, we will facilitate dialogue with the business sector and other stakeholders to clarify which issues require breakthroughs and present a new social vision for radical systemic reform as an opinion leader.

2025年大阪・関西万博へ向けた具体的な取組

Focal Initiatives for the Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

大阪大学は、2025年大阪・関西万博を「生きがいを育む社会の実現」に向けたマイルストーンと位置付け、①「いのち」について世界の人々と対話し、どのような社会を目指すのか共に未来社会を構想する取組、②志を一にする海外の大学とのグローバルな共創、③大阪大学が最も重要視している、次代を担う若者や学生が参画し、若者の視点で未来を構想する取組を進めます。

Osaka University views the Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan as a milestone toward the realization of "a society where each member leads a meaningful and fulfilling life." We will pursue initiatives on:

- (a) envisioning the future society that we want to create through dialogue with people from around the world on the topic of "inochi*";
- (b) global co-creation with overseas universities that share the same aspirations; and
- (c) shaping the future from the perspective of students and young people who will lead the next generation, which Osaka University places the greatest importance on.

2025年大阪・関西万博のレガシーは、「モノ」の万博であった70年大阪万博とは異なるもの、すなわち、未来社会を構想して世界中に発信する「いのち宣言」、さらに、時代を担う若者たちの活動がソフト・レガシーとなることを期待しています。

We anticipate that the legacy of the Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan will differ from that of Japan World Exposition Osaka 1970, which focused on "materials." This time, the expo will leave a different legacy, shaped by the activities of young people who will lead the era, as well as the "Inochi" Declaration that disseminates a future society's vision to the world.

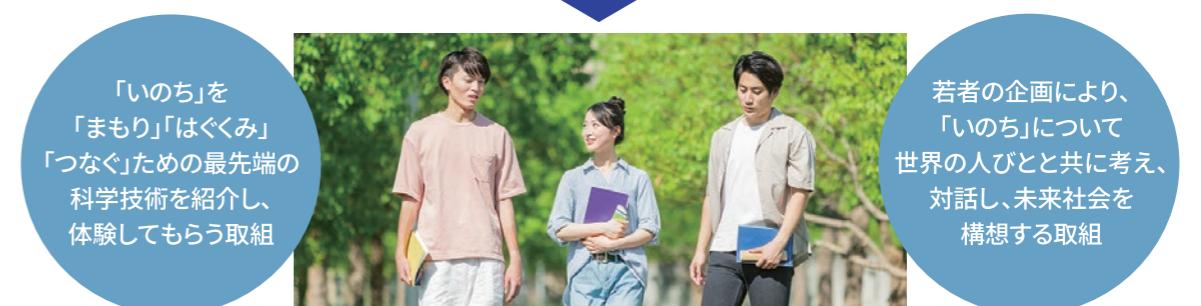
*Inochi: Something to be protected, nurtured, and bonded in order to live well. By respecting inochi and creating a society where our individuality and full potential are celebrated, we embody Henri Bergson's words: "élan vital," or a vibrant experience of life.

**1 「いのち」について世界の
人々と対話し、どのような
社会を目指すのか共に考える
未来社会の構想**

**2 海外の大学との
グローバルな共創**

**3 次代を担う若者や
学生の参画**

「ひと」が中心となり「若者」が活躍する万博へ



「モノの展示」から「体験と思考」へ

大阪大学の取組や若者の活動
そのものが新たな万博の
レガシーとなる

いのち輝く未来社会を
実現するための
いのち宣言

若者の視点から
未来社会を構想
**将来を担う
リーダー**

アンコンシャスバイアス

「無意識のバイアス - Unconscious Bias -」とは、誰もが潜在的に持っているバイアス(偏見)のこと。育つ過程で知らず知らずのうちに脳に記録され、固定観念となる。

インターンシップ・オン・キャンパスプログラム

大阪大学の産学連携システムとして設置されている共同研究講座・協働研究所を活用し、学生が学内において長期間インターンシップに従事できる制度。

オープンサイエンス

論文のオープンアクセス(論文等の研究成果をインターネット上で公開し閲覧可能とすること)と研究データのオープン化を含む概念。社会に対する研究プロセスの透明化や研究成果および研究データの幅広い活用を図り、オープンイノベーションの重要な基盤となるもの。

学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院システム

Double-Wing Academic Architecture(DWAA)

これまでの専門性の探求を目指す「知の探究」型の教育に加え、専門分野のコアの修得を前提として、「知と知の融合」「社会と知の統合」の新たに二つの方向に教育を広げた人材育成システム。

機関リポジトリ

大学等の学術研究機関が設置する、所属構成員による論文等の研究成果を収集・保存・公開する電子アーカイブで、オープンアクセスを推進する重要な基盤となっている。

企業・大学相互メリット型リカレント教育

大阪大学の産学連携システムとして設置されている共同研究講座・協働研究所を活用し、企業の優秀な人材が高度研究活動に従事し、学位が取得できる制度。

質保証システム

大学等が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、それによってその質を自ら保証するシステム。

ダブル・ディグリー・プログラム

ダブル・ディグリー・プログラム協定等に基づき、同時期に本学と外国の協定校に在籍し、両大学で実施する連携した教育プログラムを学修したうえで、それぞれの大学から学位が授与される制度。

パブリックリレーションズ(PR)

ステークホルダーと双方向のコミュニケーションを行い、学内に情報をフィードバックしつつ、良い関係を構築し、継続していくマネジメント。

ブレンデッド教育

対面授業を基本とし、多様なメディアを活用して行う教育。

+ELSI

ELSI(倫理的・法的・社会的課題(Ethical, Legal and Social Issues))の早期の発見と対応を組み込むこと。

FD

ファカルティ・ディベロップメント。授業の内容及び方法の改善を図るために組織的な取組。

IR

Institutional Researchの略称。大学におけるIRとは、大学の経営改善や学生支援、教育の質向上、研究推進等のため、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の実行・検証を行うといった活動を指す。

LEED認証

サステイナビリティ(持続可能性)に配慮した優れた建築物を作るため、先導的な取組を評価するグリーンビルディングの国際的な認証プログラム(環境性能評価認証システム)のこと。LEED-NDは、複数の建物を含む土地開発やまちづくりを評価するものであり、本学箕面新キャンパスは、大学キャンパスとして日本初のゴールド認証を取得した。

OUDX基本方針

大阪大学の教育・研究・経営における様々な目標達成を、情報通信技術を駆使することによって加速し、変革を進めるすべての活動を「OUDX」と総称する。その推進に向けた基本方針のこと。

PLR(Personal Life Records)

人々の医療・健康情報である情報「パーソナル・ヘルス・レコード(Personal Health Records : PHR)」に、日常生活、職場／学校での活動、食事、スポーツ活動など、日常生活の様々な活動データを加えた情報。

STEAM分野

Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematicsを中心とした5つの領域。

Student Life-Cycle Support (SLiCS)

教育成果を可視化し、一人ひとりに最適な学修・環境を提供するため、教学DXの推進によるデータを活用した効率的かつ最適な支援の提供により、大学教育の効果を最大限に高める教育体制。

URA (University Research Administrator)

大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。

ZEB(ゼブ)

Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)の略称。50%以上の省エネと創エネを組み合わせ、従来の建物で必要なエネルギーの100%以上の消費量を実現した建物。

